

■整形外科

1. 2021 年度の目標及び方針

- ①新型コロナウイルス感染症対策への整形外科的貢献
- ②亀田クリニック整形外科における処置オーダー導入・予約システム導入を先行する
- ③手術室増設に伴う、手術待ち患者の待ち時間短縮
- ④木更津プロジェクトに対応する整形外科としての準備開始

2. 2020 年度評価

- ①タスクシフティング推進の具体化（JOANR や外来業務における PA の獲得）による医師の働き方改革
→ 具体的なアシスタント獲得実現に向けて、対応を継続している。
- ②新専門医制度への対応継続。毎年変更が続く制度に対して安定した研修受け入れ体制を整備する。
→ 東邦大学大橋病院との連携を強化し、専攻医の安定的な確保を維持している。
- ③質の高い診療を維持のための人材確保
→ 頸椎手術のスペシャリストを迎えることができた。学術指導により、専攻医がアワードを獲得した。
- ④京橋クリニック整形外科の発展と安房地域医療センターとの連携強化
→ 安房地域医療センター整形外科は、毎年手術件数が飛躍的に増加して経営に貢献した。京橋クリニックからの手術症例獲得も継続して行われている。

3. 科(課・室・委員会)の年間活動内容(試みや特徴など)と紹介

基幹病院として新専門医制度に対応するために、指導医および専門医をこれまで以上に充実させることが急務となった。外傷・上肢・下肢・脊椎が院内研修での必須項目であったため、新たに手外科専門医と脊椎外科指導医の確保を行った。これにより 2016 年 4 月より本格的に手外科・脊椎外科が始動できるようになった。スポーツ医学科においてスポーツ整形と関節鏡手術の教育を委託し、リハビリテーション・骨軟部腫瘍研修については、従来より教育が可能であったことから、整形外科教育においてほぼすべての研修が可能な体制となった。また新専門医制度では大学病院での研修が必修となったため、研修先として新たに慶応義塾大学整形外科、帝京大学整形外科と連携することとなった。さらに地域医療研修も新制度の必須項目であるが、こちらも安房地域医療センター整形外科での研修を学会が制度化する以前から必修項目として採用しており、学会が求める以上の高い水準で地域医療研修を提供できる体制になっている。

日常業務については、定時・臨時の手術が多いためスタッフ全員が集まりにくい中、週間予定として術前・術後カンファ、新患・画像カンファ、リハビリカンファ、診療科内勉強会を開催している。抄読会、病棟スタッフを対象とした勉強会は随時開催している。さらに 2015 年より、これまで各スタッフ個人の努力目標としていた医療安全、倫理、感染対策についても定期的に研修する機会を医局組織として増設した。また後期研修医には各種学会・研究会のセミナーやハンズオンに積極的に参加できるよう支援体制を整えている。

4. 実績(症例件数や手術実績等)

①年間総外来患者数は19047人、年間入院患者数は1082人、平均在院日数は17.6日であった。

②手術実績

年間手術件数は1,206件(外来手術76件、入院手術1130件)であった。内訳は表に示す。基本的には骨折を中心とした外傷や感染症に対する手術が多く、人工股関節置換術・人工膝関節置換術も増加、さらに癌の骨転移を含めた骨軟部腫瘍手術・切離断を行い全体としてバランスのとれた研修が受けられる手術内容となっている。

整形外科手術件数(2020年度)

病院

術式	件数
観血的整復内固定術	299
上腕骨	31
橈骨・尺骨	77
手根骨・中手骨	12
指節骨	7
大腿骨	99
脛骨・腓骨	29
足根骨・中足骨	12
鎖骨	16
その他	16
経皮的鋼線刺入固定術	22
創外固定術	14
骨内異物除去術	114
関節形成術	17
関節固定術	9
偽関節手術	3
滑膜切除術	9
人工関節置換術	167
股関節〔全〕	50
股関節〔部分〕	34
膝関節	76
その他	7
骨腫瘍搔爬術	19
四肢切断術	15
軟部腫瘍摘出術	27
デブリードマン	34

クリニック

術式	件数
腱鞘切開術	41
手根管開放術	21
皮膚・軟部腫瘍摘出術	6
その他	8
計	76

手根管開放術	17
神経移行術	7
椎弓切除・椎弓形成術	70
バルーン椎体形成術	13
ヘルニア注射術	10
椎間板摘出術	45
脊椎固定術	113
その他	106
計	1130

* 1回の手術で複数の術式を施行した場合は主術式を選択して集計しました。

手術室	入院	外来	緊急
病院	1130	0	126
クリニック	3	73	0
計	1133	73	126

整形外科患者数・平均在院日数(2020年度)

2020年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
新患者数(CL外来)	149	181	235	228	216	232	250	225	220	172	197	254	2,559
入院患者数	91	74	89	73	89	100	98	96	97	94	86	95	1,082
退院患者数	82	75	92	87	78	99	104	83	123	87	87	85	1,082
在院患者数	1,675	1,711	1,694	1,412	1,540	1,601	1,819	1,652	1,673	1,384	1,265	1,621	19,047
平均在院日数	19.4	23.0	18.7	17.7	18.4	16.1	18.0	18.5	15.2	15.3	14.6	18.0	17.6

集計元データ

新患者数(CL外来)	科別外来月計表の一般受診・新来
入院患者数	入院月報(2)の入院科別の入院数
退院患者数	入院月報(2)の入院科別の退院数
在院患者数	入院月報(2)の入院科別の在院数
平均在院日数	計算: 在院患者数 / ((入院患者数 + 退院患者数) / 2)

5. 学術関係

1. 論文

- ・ 畠山 浩太郎、他：特発性長・短腓骨筋腱横断裂の1例 日本足の外科学会雑誌 41巻 1号
Page 332-334 2020.08
- ・ 久能 隼人、他：手関節周囲の医原性神経損傷に対する皮弁被覆を併用した神経再建手術の有効性 日本マイクロサージャリー学会会誌 33巻 4号 Page 207-214 2020.12

2. 学会・研究会発表

- ・佐々木真一、他：側方経路腰椎椎体間固定術の臨床成績と cage 選択の留意点 第 93 回日本整形外科学会学術総会（オンライン学術総会） 2020/6/11-8/31
- ・佐々木真一、他：側方経路腰椎椎体間固定術（LLIF）の周術期成績と Cage 選択の留意点 第 49 回日本脊椎脊髄病学会学術総会 2020/9/7-9
- ・久能隼人、他：重度指背側複合組織損傷に対する薄層化腹壁皮弁と足趾関節移植を用いた二次的 PIP 関節再建法 第 47 回日本マイクロサージェリー学会学術集会 2020/11/19-22
- ・山木良輔、他：欠損を伴う橈骨神経断裂に対して正中神経からの神経移行術を行った 1 例 第 47 回日本マイクロサージェリー学会学術集会 2020/11/19-22
- ・津村成美、他：稀な上肢壊死性筋膜炎に対し有茎広背筋及び遊離前外側大腿皮弁を用い患肢温存、機能回復し得た 1 例 第 47 回日本マイクロサージェリー学会学術集会 2020/11/19-22
- ・山木良輔、他：VLP のみでの治療が困難であった橈骨遠位端骨折の症例検討 第 35 回東日本手外科研究会 2021/1/30
- ・津村成美、他：手関節周囲神経損傷に伴う神経障害性仏痛に対する皮弁被覆の有用性 第 35 回東日本手外科研究会 2021/1/30
- ・津村成美、他：脊髄刺激療法（SCS）端子による医原性頸髄症に対し、術中エコーを確認することで固定を免れた一例 第 61 回関東整形災害外科学会 2021/3/26

文責：黒田浩司